

時事の話題

主要企業の 9 月中間決算から

京都の主要企業の 2007 年の 9 月中間決算が出揃った。大手企業を中心に概ね好調だが、取引上、立場の弱い中小企業は、原材料価格の高騰による価格転嫁を進めることができず、大企業との景況感の違いが今まで以上に広がりつつある。

9 月決算発表後 10 月末から、日経平均株価の下落が続いているが、企業業績に対するの評価というよりも、国際経済の動向の不透明さが、投資家の投資意欲をそいでいるのが原因であろう。企業を取り巻く経営環境の見通し判断が非常に難しくなっており、年末のアメリカのクリスマス商戦での個人消費の動向を、注意して見守っていきたい。

京都商工会議所の動き

第 4 回京都・観光文化検定試験の申込者について

本年度の試験申込み総数は、9,063 名となった。初めて 1 万人を切ったとはいえ、沖縄県を除く全都道府県から申し込みがあり、今年も多くの方に受験していただくことになり、大変喜んでいる。試験当日は、おもてなしの心で温かくお迎えし、事故の無いよう万全の受け入れ態勢で臨む。

他府県の方の比率が年々高くなり、京都検定が全国的な検定試験に育っていることを実感している。今後は、京都府市民の方にも、もっと受験していただけるよう工夫するとともに、合格者へのフォローアップなどにも力を入れていきたい。

正副会頭と部会長・委員長との勉強会開催について

先日の臨時議員総会において発表した「ニュー京商ビジョン」を踏まえて、12 月 7 日に、本所の正副会頭と部会長・委員長合同による、勉強会を初めて実施する。

会員の参画機会を増やし、ボトムアップ型の会議所の組織づくりを推進するうえで、部会・委員会の事業活動は非常に重要になるため、自律的な部会の運営や委員会機能の強化について討議する。また、中小企業の真の強みを活用する知恵ビジネスの事例について、京都工芸繊維大学の中森孝文准教授からご講演いただく。

今後の会議所運営の中心的な役割を担う役員の結束を深め、「知恵産業のまち・京都の推進」を実践に移すための第一歩としたい。

記者からの質問事項

京都市長選の現状に対する認識について

民主党が門川教育長へ単独出馬を要請したことについて

民主党が単独で候補を推薦したことに、驚きを感じている。自民党・公明党が候補者選定をぎりぎりまで遅らせていることが一因ではないか。以前から申し上げている通り、与党3会派が、共通の候補者を推薦することが望ましいと考えている。京都は、府・市・経済界が協調して、街づくりや地域活性化に取り組んできた。3会派での話し合いを尽くしてもらいたい。

経済界として、政党間の調整を果たされる考えはあるか

考えていない。立候補者が出揃ったところで、経済界としての立場をはっきりさせる必要があると考えている。

以 上